

睡覺偶吟

白居易

官初めて罷めて後帰り来夜天明けんと欲する前睡り覚むる時

起坐して思量す更に事無し身心の安楽復誰か知らん

【作者】白居易(七七二〜八四六年)、中唐の詩人。字は楽天。号は醉吟先生・香山居士。弟に白行簡がいる。鄭州新鄭県(現河南省新鄭市)に生まれた。子どもの頃から頭脳明晰であつたらしく、五〜六歳で詩を作ることができ、九歳で声律を覚えたという。彼の家系は地方官として役人人生を終わる男子も多く、拔群の名家ではなかつたが、安祿山の乱以後の政治改革により、比較的低い家系の出身者にも機会が開かれており、八〇〇年、二十九歳で科挙の進士科に合格した。三十五歳で盩厔県(ちゆうちつけん、陝西省周至県)の尉になり、その後は翰林学士、左拾遺を歴任する。このころ社会や政治批判を主題とする「新楽府」を多く制作する。八一五年、武元衡暗殺をめぐり越権行為があつたとされ、江州(現江西省九江市)の司馬に左遷される。その後、中央に呼び戻されるが、まもなく自ら地方の官を願い出て、杭州・蘇州の刺史となり業績をあげる。八三八年に刑部侍郎、八三六年に太子少傅となり、最後は八四二年に刑部尚書の官をもって七十一歳で致仕。七十四歳のとき自らの詩文集『白氏文集』七十五巻を完成させ、翌八四六年、七十五歳で生涯を閉じる。